

パターン別各主体の考え方の整理

	タクシー事業者	タクシー運転者	利用者	地域	配車システム事業者
パターン1	● 創意工夫・営業努力が反映されにくい。	● 低い運賃を設定している時間帯のシフトのドライバーの売上が減少するおそれがある。	● 同一地域で同様の運賃となるため、利用者にとってわかりやすい運賃形態となる。		
パターン2	● 各事業者ごとの繁忙時間帯に合わせて柔軟に料金を設定することが可能となる。	● 運賃は下がらないため、シフトによるドライバーの（売上への）影響は比較的小さい。	● タクシー事業者ごとに料金を設定するため、外部表示を行ってもわかりにくい。 ● 乗り場など、乗る順番によって金額が変わる可能性があり、不公平を感じる場合がある。 ● どの名目で料金（アプリ手配料等）を支払っているのかわかりにくい。	● 必要なコストを利用者に転嫁することにより、地域旅客運送サービスを持続的に運営・維持することが可能。 ● また、地域の実情に合わせた特定の時間帯を対象とした公的支援を行うような工夫が可能。 ● 同一地域で時間帯によって運賃が変わることについて、住民の理解が必要。	● 変動する運賃への対応として、配車アプリは有効な手段であり、アプリの普及がさらに進むことが想定される。 ● アプリ手数料等のあり方についても検討することが必要ではないか。
パターン3	● 各事業者ごとの柔軟な設定が可能になるため、増収につながる可能性がある。 ● 自由な運賃設定で値下げが続けば過当競争を招き、安全コストに影響するおそれがある。	● 低い運賃を設定している時間帯のシフトのドライバーの売上が減少するおそれがある。 ● そのため、歩合制による給与体系を前提とするとドライバー間で不公平が生じるのではないか。	● 割引割増を設定している時間帯・金額の予見可能性が低く、利用者にとってのわかりやすさが課題となる。		